

北朝鮮人道支援の会 ニュースレター NO.44

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田 康彦

2006年11月1日

郵便振替番号：00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

「圧力」だけで拉致問題を解決できるか

——安倍首相の対朝鮮政策を分析する 前田 康博

(大妻女子大教授・本会世話人)

二度の訪朝をした変人奇人首相が「喪失した5年」を置き土産に退陣した。待ちに待ったというべきか、「コイズミ以外なら誰でもよい」とへきえきしていた一部の国民はコイズミ後にも絶望しなければならぬ事態に直面している。

コイズミ腹心の安倍晋三官房長官が首相に就任したからだ。

オールド・メディアとして読者の信頼低下著しい新聞各紙は勝ち馬に乗るべく、安倍晋三内閣は60%台の高支持率だと発表し、歴代内閣中2、3位だとしきりに太鼓を叩く。

いくら拙速のアンケートだと言いつつ、世論調査がどれほど作為と虚偽に満ちた産物かは誰もが知っている。時の「政権との癒着」こそマスコミ各社の生き残りの決め手とあって、世論調査の結果は各社幹部連のさじ加減一つで決められ、「ご祝儀袋」を届けるに似た茶番劇でしかない。政治と言論の癒着こそ国民の不幸というものであろう。

【戦後否定内閣】

さて安倍首相とその内閣の性格について、仲良し内閣、学生祭内閣、ネオコン・チルドレンなど、テレビのワイドショー、スポーツ新聞まで加わってかしましい。

多くの形容詞のなかで、「戦後否定内閣」というのがもっとも正鵠を射ているようだ。

「昭和の妖怪」こと祖父、岸信介元首相をもじれば、「平成の妖怪」の登場といえる。

10月8日、訪中後の記者会見で、安倍首相は「戦後60年の平和国家としての日本」に言及したが、従来の発言からみると心底からそのように思っているはずはない。

国民は第9条を含む平和憲法を軸に、日々の生活に民主主義的思考と手法を取り入れ、軍事力放棄と国際協力・貢献を念じて生きてきた。だが安倍首相の思想、信条、哲学、価値観、歴史観いずれをとっても戦後の「格差なき平和国家づくり」を肯定したものはない。

安倍首相がよく読んでくれと国会でも宣伝する著書、「美しい国へ」(文春新書)はいまどきの高校生でも書かない稚拙な文章として識者間の評判はよくないようだ。内容は吉田松陰以来、連続と続く国粋思想、国家主義的信条の後継者としての姿を映している。

長州の吉田松陰への思想的傾倒、岸信介の戦争観への共感などから分析すると、安倍首相個人がきわめて時代錯誤の日本至上主義的政治手法をとる恐れが窺い。

国民は見てはならない妖怪、幽霊に遭遇しているのかもしれない。いまはできるだけ短命の内閣で終わってくれることを祈るばかりだろう。

【拉致問題解決への道】

中韓両国の外交巧者を前に、例の靖国問題はあいまいな言辞でごまかしたもののメッキが剥げるのは時間の問題と一部の国民は憂慮している。変人奇人の5年間に座礁したアジア外交は中韓両国の複雑な国内事情も作用して、一時的に関係を回復するだろう。

だがもう一つ重要な課題がある。それはコイズミ以来、難問となってしまった朝鮮民主主義人民共和国(朝鮮)との国交正常化問題である。日本外務省サイドは日本人拉致問題が国交正常化の最大の障害物とみているのに対し、安倍首相は「拉致問題の解決なくして正常化はない。圧力をかけて全員奪還する」と表明している。

そして安倍首相は拉致担当大臣(塩崎恭久官房長官)と官邸補佐官(中山恭子元内閣参与)を置き、自ら本部長を兼ねることになった。「拉致問題」を解決する不退転の決意というわけである。拉致被害者家族も制裁強化を歓迎し、野党を含め多くの国民も政府が真剣に拉致問題に取り組んでいるとして好意的に見ているようだ。

だが「対話と圧力」から対話が抜け落ち、「圧力」のみとなってしまった現在、「拉致問題」を解決する選択肢はゼロに戻ってしまった。担当大臣や補佐官を設けても国内向けでは、「おためごかし」に過ぎないのではないか。つまり外務官僚を使わず、すべての外交交渉(対話)の道を塞いでしまえば信頼醸成も国交正常化も永久に実現しないことになる。振り上げた拳が下ろせなくなった時、これが安倍内閣の命取りになるかもしれない。

【拉致解決を遅らせる真因】

ミサイル発射、核実験への対応で日本は国連安保理で積極的に対朝鮮制裁の音頭を取ったが、このような「圧力」が拉致問題解決に資すると思う人はいないだろう。一党独裁支配の国に対して議員外交も民間外交も通じない。まして中国・韓国へ出かけて「拉致問題」への協力を呼びかけても意味ない。

未開国との交渉は国交正常化を前提として外交当局が地道な交渉を続けるほかにない。すべての外交分野のパイプを切断したいま、無手勝のままりップサービスでは結果として被害者家族の期待を裏切ることになりはしないか。

実効ある政策を示してこそ解決への道が開ける。だが安倍首相が敬愛してやまない吉田松陰は「外征論」で「今大いに軍艦を打造し、北は蝦夷を収め、西は朝鮮を服し、進取を示し候わば群夷自ら手を収むべし」と述べている。

岸信介がA級戦犯として獄中で書いた「断想録」には「大東亜戦を以て日本の侵略戦争と云ふは許すべからざるところなり」とある。当然、岸は戦争を起こした責任は感じていないし、戦争で大きな被害を与えたアジア諸国に対する反省も謝罪もない。

安倍首相は予算委員会で、開戦詔書に署名した祖父(当時の商工相)の責任について問われ、「政治家は結果責任を負うのであり、その意味で署名は間違っていた」と答弁した。君子豹変でも変節でもなく、本心は不変であり、世襲政治家の「消しがたいDNA」の中に拉致問題の解決を遅らせる因子が潜んでいるのではないか。(2006年10月23日記)

【解説】

北朝鮮「核実験」後の朝鮮半島情勢

2006年10月9日の北朝鮮「核実験」のあと、14日 国連安保理は「大量破壊兵器関連物資」ならびに「ぜいたく品」の禁輸を規定した決議1718を全会一致で採択した。その後の関係各国の立場は次のとおり。

北朝鮮

- * 実験は成功、抑止力を実証（実際には失敗説が有力）
- * 当面再実験の計画はないが、米国の対応次第では検討
- * 金融制裁解除を要求（口頭による約束でもよい）
- * 米朝2国間交渉による冷戦構造解消を要求
- * 朝鮮半島非核化が究極の目標であることに変わらない

米国

- * 金融制裁解除には応じない⇒しめつけ強化で体制転覆狙う
- * 2国間交渉には応じない⇒あくまでも6者協議で問題解決
- * 6者協議への無条件復帰を要求
- * PSI(拡散安全保障構想)を強化し、航行中の船舶検査を徹底
- * 再実験すれば武力行使を含む国連安保理制裁決議採択

中国

- * 武力行使反対、朝鮮半島非核化、金正日体制支持
- * 安保理決議(大量破壊兵器禁輸)には従うが支援は継続
- * 再実験には反対
- * 同時に米中協力の枠組みは維持

韓国

- * 宥和政策は基本的に堅持し、安保理決議以外の支援は継続
- * ただし世論の反対に直面し、苦しい立場

ロシア

- * 武力行使には反対。再実験にも反対。米朝直接交渉を支持
- * 国連安保理では中国に同調

日本

- * ひたすら米国に追随。「対話」でなく「圧力」でのみ対応
- * 単独制裁にまっしぐら。在日朝鮮人いじめで憂さ晴らし
- * 日本独自の核武装論議も憂さ晴らし
- * 「拉致問題の完全解明なくして国交正常化なし」を堅持

以上が関係6カ国の立場で、米朝間の溝は深い。そうした中で米中間選挙(11月7日)の結果に注目しよう。米朝直接交渉を主張している野党・民主党の躍進したいでは、ブッシュ大統領も議会の声に耳を傾けざるを得ない事態が予想される。

ことし7月の豪雨による水害の結果、コメ不足が懸念されるが、国際社会の食糧支援が滞っており、新たな餓死者が増える可能性がある。たとえ焼け石に水でも貧者の一灯を届けたい。

通信欄

会費・義援金・寄付金ありがとうございます。水害被災者見舞いのための「特別カンパ」を引き続き実施します。ご協力下さい。

★以下はニューズレター前号(2006年9月1日付)刊行以来、会費・義援金を納入して下さった方々です。(納入日付順・カッコ内は送金者名)

【年会費・義援金】

12000円(工藤朋子)、4000円(伊関 要)、4000円(内野茅花)、5000円(床井 茂)、2000円(三宅正勝)、2000円(中原純子)、2000円(大久保敏明)、5000円(増岡信男)、7000円(横山 新)、5000円(酒井紀子)、4000円(児玉秀智)、3000円(岩島久夫)、5000円(沼田昭介)、5000円(今泉英明)、4000円(姜 富三)、2000円(岡田和子)、3000円(匿名希望)、3000円(桜井善作)、3000円(並木 薫)、1000円(池田正枝)、2000円(庄司 徹)、4000円(匿名希望)、5000円(権 美子)、2000円(野村映次)、2000円(片山祐一)、3000円(森田佳子)、5000円(杉本文男)、5000円(大原美香)、5000円(あらかわ元気クラブ)、2000円(木村あや子)、2000円(高坂美幸)

累計人道支援基金・運用資金 193,729 円

(2006年10月29日現在)

次回、人道支援実施のための目標は100万円です。ご協力をお願いします。基金が一時的に減少するのは、ニューズレターの印刷、発送費用等の支払いが生じるためです。

なお年会費2000円は「ニューズレター」の購読料金で、会員としての最低限の拠出額です。年間の編集・印刷費用、郵送料、事務経費で、ほぼ相殺されます。2000円に上乗せして送金して下さる額が人道支援の基金となります。金額は自由ですが、なるべく多額のご寄付をお願いします。寄付は常時受け付けています。

会員からの近況報告:

★ 日本と在日の子ども達が自ら田植えをして稲刈りして、その収穫を朝鮮に送っている「平和の糧」運動は今年も順調、豊作を期待しています。これとは別に、各自が収入の1%を拠出し合って朝鮮学校の民族教育を支えようという「1%の底力」運動を開始しました。日朝国交正常化に向けてこれからも頑張りましょう。(大阪市在住・伊関 要)

★ 韓国の人びとが北の同胞支援を粘り強く続けていることに希望と勇気を与えられています。(千葉県在住・内野茅花)

★ たいへんな日本になってきました。しかし、いま世界を牛耳っている国は退き、非同盟諸国が手をつなぐ、そんな希望がもてます。(生駒市在住・池田正枝)

★ 北朝鮮の核実験に対して国際社会は「制裁、制裁」の連呼。安倍首相の発言をヒヤヒヤしながら聞いていますが、これを機にアメリカも北朝鮮と直接対話するよう望んでいます。国連安保理決議の内容によっては、北朝鮮の船舶の臨検で不測の事態の発生も予想されます。(柳川市在住・平川硬一)

緊急集会 **グランワークショップ 12月10日(日)14時**
「核と戦争の危機を止めよう」日本青年館(東京千駄ヶ谷)

講師=坂坂展人(社民党衆議院議員)、吉田康彦、土井敏邦

主催=同実行委員会 問合せ=TEL 0422-44-4935